

画面の中で生きないで

甲斐市立竜王北中学校三年 木内 愛

人権とは、人がみな幸せに生きる権利。学校で人権についての授業があった時、そう教わった。授業の中で、インターネットの使い方によって、人や自分の人権が侵害されてしまう危険があることを学んだ。だからそれを防ぐために、私はスマホでのインターネットの使い方について、よく考えてみることにした。

最近、スマホの利用について思ったことがある。友達六人とカラオケに行った時の話。車で移動する最中、みんながスマホをいじっていた。カラオケに着いてからも、自分が歌う時以外はスマホに夢中になって、たまにあいの手を入れつつも視線は下を向いたままだった。私はその日初めて、友達とカラオケに行ったのだが、その光景にとっても驚いた。

私もふだん、ひまな時間があればスマホをいじっている。でも、友達と遊んだり、人とでかけたりする時は、必要以上には使わないよう心がけている。せっかく直接会っているのだから、話をしたいと思うからだ。なので、友達が画面から目を離さない空間は、話しにくく、さみしいと感じた。

この日、私は、友達がまるで画面の中で生きてるように思えた。歌うことよりも、インスタグラムにのせる写真を撮ることに忙しそうだった。みんなはそれで楽しかったのだろうか。

スマホを見ていないで話そうよ、とは言えなかった。なぜなら、私以外みんなスマホをいじり続けていて、まるでそれがあたりまえのような空気の中、言い出すことはためらわれたからだ。しかし、話したいと思ったことは、友達に話しかけた。友達は答えてはくれたが、スマホから目を離さなかった。だからそのうち、私は話す気が失せてしまった。

人権侵害の代表的な例はいじめだと思う。現実でも、インターネット上でも、いじめは絶対にあってはいけないものだ。でも、人の考えはそれぞれ違うから、すれ違いの中でいじめが起きてしまうことがある。いじめの原因を全て取り除くことはきっと難しい。だから私は、いじめが起こってしまっても、それをやめさせる行動を起こすことが一番大切だと思う。

私は小学生の頃、考えの違いから友達にいじめを受けたことがある。たたかれたり、トイレにとじ込められたり、死ねと書かれた手紙を何度も送られたり、身も心も傷ついた。しかし、私は親や先生、他の友達など、まわりの人に相談

する行動をとった。一度や二度、先生にしかってもらうだけではいじめは終わらなかった。けれども、私の味方でいてくれる親や、一緒に解決策を考えてくれる先生、話を聞いてくれる友達の存在が私の心を支えてくれた。だから、私はいじめをのりこえ、少し強くなれた。つまり、まわりに相談する行動が、いじめをやめさせることにつながったのである。

いじめを誰にも相談できず、一人で抱え込み自殺してしまう人のニュースを見ると、とても胸が苦しくなる。どうして一人で抱えてしまったのだろうと、悲しくなる。

インターネットは、いつでも、どこでも、誰とでも、つながることができる世界。いろんな人とコメントなどを通して関わり合える、さみしさとは縁が薄い世界にも思える。けれども、そこに没頭しすぎて、まるで画面の中で生きるようになってしまった時。もしもその時、インターネット上でいじめを受けてしまったら、画面の中の世界に捉われてしまったら、外の世界に目を向けることなく、簡単に孤独に飲まれてしまうのではないかと思う。

私は、インターネットの外の世界に、私の味方になってくれる人がいることを知っている。そして、まわりを頼ることの大切さを身をもって知っている。

インターネットの世界は便利だし、おもしろいものにあふれている。けれども、私が生きているのは、画面の中じゃない。

直接人と会うこと、外の景色の中を歩くこと、画面の中じゃ体験できないことが、世界にはあふれている。私は、スマホやインターネットを利用する時間を減らす行動をしようと思う。そして、画面の外でいろんな楽しみを見つけていきたい。

これから先、インターネットから離れた時間の中で、どんな素敵な世界に出会えるか、とてもわくわくしている。それから、どんな世界に出会えたか、まわりの人と共有したい。そうして出会った世界を広げながら、またどんどん探して行きたい。

「画面の中で生きないで。画面の外には、こんなに素敵な世界があるんだよ」
そう言えるように。